

## 開会のことば

岩手県立大学総合政策学部長 小針司

○小針 皆さん、どうも本日はお忙しいなか、この第1回のフォーラムにおいでいただきましてありがとうございます。私が総合政策学部を代表しまして、ひとことごあいさつを申し上げさせていただきます。

この「防災・復興研究会第1回公開フォーラム」でありますけれども、実は防災・復興研究会は昨年の3.11を受けまして、総合政策学部内に4月当初から設けられた研究会でありまして、その研究課題には3つ、今度はチームを設けて研究にいそしんでいたわけでありまして。

社会調査チーム、産業経済・行政チーム。そして、社会・環境基板チームです。その3つをつくりまして、それぞれ専門の先生が入りまして研究を重ねてきた。この研究の成果につきましては、昨年の12月でありますけれども、学内におきまして学内部での中間報告会を開催をしたということです。これを受けまして、本日の第1回フォーラムのほうは、対外的に総合政策学部の防災・復興の、研究の成果というものを幾ばく、例えば地域の皆さんにも還元すべく挙行されているということでございます。

本日は、基調講演ということでございまして、中川和之先生にお越しいただきまして、災害と情報のご専門でありますので、そういう立場から、ジオパークに絡みまして基調講演をいただくということになっております。

それから学部教員につきましては、道路交通・公共交通をご専門の元田先生から「ガソリンのパニック買いはあったのか」。こういうふうなテーマで、このあとに、引き続きまして研究報告をお願いすることといたしております。

それから財政学、地方財政学ご専門の栗田（くわだ）先生から「岩手沿岸における地域医療の復旧問題・課題」ということとございますが、これまたご報告をいただくことになっております。

財務会計租税法のご専門の金子先生から「東北中小企業の経済的困難の現状分析」ということで、これまた調査に基づくご報告をいただくということとございます。

そして、農業経営学、農業経済学の観点から新田先生には「陸前高田市における商工会が復興に果たす役割：現状の把握と対処について」というふうに題しましてご報告をいただくというふうになっています。

最後になりますけれども、計量社会学、社会調査のご専門であります阿部先生からは『被災地における震災後の生活と意識：「復興に関する大船渡市民の意識調査」』ということで、締めくくりの報告をいただけるということとございます。

その後にも基調報告をいただきまして、さらにパネルディスカッションに続くということで、「大学は復興にどのように貢献できるか」ということで、ここでは復興に携わ

ってきました教員のみならず、学生の方にも入っていただきましてパネルディスカッションをおこなうということで、皆さんご存じかと思えますけれども、復興 girls\*というのが総合政策学部の女子学生を中心に構成されております。いろいろな活動がなされております。

それから、大船渡市こどもふっこう会議学生ファシリテーターの代表の方にも入っていただき、学生からも復興に関する発言をちょうだいしたいというふうに考えております。

そういうことをございまして、防災と復興という2つの大きなテーマを抱えて、この研究会はスタートしてきましたけれども、復興のほうに起点をおいて進めていければ非常にいいのでありますけれども、何やら、まだ余震がくすぶっております、完全に地震・津波の危惧（きぐ）が解消されているわけでは、どうもなさそうでありますので、引き続き防災・復興研究会は人の生命の維持をどうするのかということに対しても充分、内容をはらいまして、今後とも研究を進めていかなければならないというふうに考えております。

なお、私的で恐縮でありますけれども、私は、この3月31日をもって、この学部長というものの重責を離れるわけですが、本日、次期学部長候補の豊島先生もいらっしゃっておりますので、ぜひとも、この学部の、特に中堅、若手の教員の皆さんが、立ち上げてきて、これまでやってきました防災・復興研究会。これも次年度以降もぜひとも続けていただければというふうに、私としては念願しております。

そういうわけで、総合政策学部の教員の研究成果、これは防災・復興に関わるものがありますけれども、本日はこのようなかたちで地域の皆さんに幾ばくか、例えば還元させていただければということで、非常にありがたいというふうに思っております。

ぜひとも、最後までご清聴いただければ大きな幸せでございます。よろしく願いいたします。本日はどうもご参集いただきまして、ありがとうございました。